

第16回全道大会 会長挨拶

一般社団法人北海道法人会連合会

女性部会連絡協議会 会長 中村法子

この度、名寄地方法人会のご協力を得て、第16回女性部会全道大会を名寄市で開催する運びとなりました。全道各地より360名を超える会員の皆様にお集まりいただき誠にありがとうございます。

また、公務ご多用のところ札幌国税局課税第二部長 岡野泰大様はじめ、税務当局の皆様、地元より名寄市長 加藤剛士様のご臨席を賜り厚くお礼申し上げます。

道北の上川管内第2の中核地、名寄市で第16回目の大会を迎えることができましたことは、大きな喜びであり、これも偏に、会員の皆様をはじめ関係各位のご支援ご協力の賜と深く感謝申し上げます。

近年、女性の社会進出が伸展する中、安倍政権においても女性の活躍を阻むあらゆる課題に挑戦し「すべての女性が輝く社会づくり」を目指すとしています。私たち女性経営者は、自らの経営力を高め、女性の強みを経営に活かし、互いに連携を深め、ともに研鑽に励み、女性の輝く社会の実現に向けて、時代の変化に積極的に対応していかなければならないと思っております。

昨年度内30単位会が新法人へ移行したのに伴い、公益事業の一層の推進が求められており、法人会組織の一員として女性部会の活動に課せられた期待と責務は、ますます大きくなってきております。

全道法人会女性部会は、女性の立場から納税知識の高揚と地域の活性化に向けて、租税教育や社会貢献活動など、地域に密着した様々な事業を積極的に展開しておりますが、事業活動の中心は「税に関する絵はがきコンクール」の実施です。

今年度も30単位会すべての会より多くの作品の応募をいただき、小学生の税知識への関心が高まってきていることを実感しております。

私たち女性部会は、女性の英知と行動力を結集し、これからも法人会活動の一翼を担い、地域の特徴を活かした公益事業の推進と、未来を担う子供たちに対する租税教育活動に最善の努力をして参りたいと思っております。

本日の大会が、時代の要請に応えていく法人会女性部会として、意義のある大会となりますよう、お集まりの会員皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日ご臨席賜りましたご来賓の皆様はじめご出席の皆様に対しまして、重ねてお礼申し上げますとともに、地元、名寄地方法人会の皆様には、本日の全道大会のために諸準備をいただきましたことに、心より感謝を申し上げご挨拶といたします。

第16回北海道法人会女性部会全道大会名寄大会

次 第

【 第1部 大会式典 】 14:00 ~ 15:15

1. 開会挨拶	女性部会連絡協議会 (釧路地方法人会女性部会長)	副 会 長	古 俣 静 子	
2. 国歌斉唱				
3. 会長挨拶	女性部会連絡協議会 (札幌東法人会女性部会長)	会 長	中 村 法 子	
4. 開催地挨拶	名寄地方法人会女性部会	部 会 長	吉 田 素 子	
5. 来賓紹介				
6. 第15回札幌大会経過報告	札幌中法人会女性部会	顧 問	吉 中 朋 子	
7. 活動事例紹介	名寄地方法人会女性部会	部 会 長	吉 田 素 子	
8. 絵はがきコンクール発表	女性部会連絡協議会 (旭川中法人会女性部会長)	副 会 長	廣 野 栄 子	
9. 来賓祝辞	札幌国税局 北海道上川総合振興局 名寄市 北海道法人会連合会	課 税 第 二 部 長 局 長 市 長 会 長	岡 野 泰 大 紺 谷 ゆみ子 加 藤 剛 士 中 井 千 尋	様 様 様 様
10. 祝電披露				
11. 次回開催地挨拶	小樽法人会女性部会	大会実行委員長	平 形 慶 子	
12. 大会宣言	女性部会連絡協議会 (函館法人会女性部会長)	副 会 長	宮 腰 優 子	
13. 閉会挨拶	女性部会連絡協議会 (小樽法人会女性部会長)	副 会 長	大 森 緑	

【 第2部 記念講演 】 15:45 ~ 17:00

「お話と演奏で綴る、名曲に関するあれこれ」

講 師 北海道教育大学旭川校准教授 木 村 貴 紀 氏

【 第3部 懇談会 】 17:30 ~ 19:00

1. 開 会				
2. 挨 拶	名寄地方法人会女性部会 名寄地方法人会	副 部 会 長 会 長	丹 野 千鶴子 坂 本 和 彦	様 様
3. 祝 杯	名寄税務署	署 長	荒 格 夫	様
4. 祝 宴				
5. 中 締	北海道法人会連合会	副 会 長	荒 田 一 正	様
6. 閉 会				

大会宣言

全道法人会女性部会は、法人会組織の一員として、研修・交流を通じて部会員の資質の向上と、社会への貢献を活動の基本とし、多様化する法人会活動の一翼を担い、また、税のオピニオンリーダーとして、法人会活動の柱である租税教育・税の啓発活動について中心的な役割を果たして参りました。

私たちは、本日の大会を契機に強い絆と一層の連携を図り、公益法人に基づく法人会活動の充実に向けて研鑽に励み、企業の繁栄と地域社会の発展に務め、北海道の未来を築く子供たちへの租税教育の推進を女性部会員が一丸となって取り組むことを「星・雪・きらめき・緑の里 名寄市」において、ここに宣言致します。

平成 27 年 11 月 10 日

第 16 回北海道法人会女性部会全道大会

記念講演



演 題

「お話と演奏で綴る、
名曲に関するあれこれ」

講 師

木村 貴紀 氏

北海道教育大学旭川校准教授

【曲 目】

1. ラフマニノフ：前奏曲嬰八短調 op.3 - 2「鐘」
2. J.S.バッハ：主よ人の望みの喜びよ
3. リスト：愛の夢第3番
4. モーツァルト：幻想曲二短調 K.397
5. ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ
6. エルガー：愛の挨拶
7. ジョプリン：イージー・ウィナーズ
8. ショパン：ポロネーズ第6番変イ長調 op.53「英雄」

【講師プロフィール】

武蔵野音楽大学卒業。同大学大学院修了。1993年東京文化会館主催「新進音楽家デビューコンサート（旧 推薦音楽会）」オーディション合格、1994年大阪府・「アゼリア推薦新人演奏会」オーディション合格、2004年佐賀県・「第10回鳥栖ピアノコンクール」第2位及び鳥栖市長賞などの受賞歴がある。

リサイタルは、1997年津田ホール、2002年及び2007年東京文化会館小ホール、2002年石川県・シーサイドヴィラ渤海、同年及び2008年石川県・金沢市アートホールの各地で開催。

オーケストラとの共演は、2000年東京文化会館大ホール、2005年佐賀県・鳥栖市民文化会館大ホール、同年福岡県・アクロス福岡シンフォニーホール、2009年かつしかシンフォニーヒルズ、2014年北海道・旭川市民文化会館大ホールで行っており、いずれもピアノ協奏曲のソリストをとめている。

また2013年には旭川フィルハーモニー管弦楽団員によって編成された室内管弦楽団を指揮しての演奏会を催した。

ピアノを故坂田真理子、徳川愛子、久富綾子、故ゲオルグ・ヴァシャヘーリ、エルジェーベト・トゥーシャの各氏に師事。

現在、北海道教育大学旭川校准教授、拓殖大学北海道短期大学非常勤講師、月刊『音楽現代』及び『北海道新聞』演奏会評等執筆者。